

■岡本かの子 “新しい女”の中でも際立って特異な人生を送り、“仏教界のスター”から、作家として華開くも早世した。

おかもとかのこ

帝国憲法発布1889＝ 東京の生れ。生家の大貫家は代々幕府および諸藩の御用達を業とした豪商。

日清戦争始・1894＝ 5歳：

白馬会・・・1896＝ 7歳：腺病質のため神奈川高津の生家で育ち、小学校に入学。初めて短歌を詠む。

子規句歌革新1898＝ 9歳：

田中正造直訴1901＝12歳：飛び級で高津の高等小学校を卒業。松柏林塾女子部に通う。

教科書疑獄・1902＝13歳：上京して、跡見女学校に入学。寄宿生活。雑誌の短歌欄に投稿。{小学世界}の懸賞文で一等。

日露戦争終・1905＝16歳：

満鉄発足・・・1906＝17歳：{少女界}に文が入選。は谷崎潤一郎と親交があり、{明星}に寄稿、谷崎らと第2次(新思潮)を刊行した文学者だった兄大貫晶川の影響をうけ、{明星}に新体詩や和歌を発表、{スバル}の同人にもなる。

韓国反日暴動1907＝18歳：跡見女学校を卒業。一時恋愛するが、相手が死去。

アヲヲ創刊・1908＝19歳：\*合同歌集「白光」刊行。画家岡本一平の存在を知る。伏屋と恋愛。

伊藤博文暗殺1909＝20歳：かの子の署名を使い出す。一平と初めて会う。伏屋と駆け落ちするが、破恋。

韓国併合・・・1910＝21歳：一平の強い要請で結婚。

大逆事件判決1911＝22歳：長男太郎誕生。{青鞥}に参加。銀行破綻取り付け騒ぎの責で、大貫家が破産に瀕する。

明治天皇没・1912＝23歳：一平の放蕩で結婚生活が危機になり、堀切茂雄と恋愛。歌集「かるきねたみ」刊行。

大正政変・・・1913＝24歳：母が死去。一平の了解のもと茂雄も同居。

民本主義・・・1916＝27歳：茂雄と別れる(彼は直後に死去)。{水滸}同人となる。性格上の衝突など夫婦間の問題に悩み、

ロシア革命・1917＝28歳：一平と共に聖書の講義を受けた後、夫婦関係を断つことを誓い実行。恒松安夫が同居し家事を見る。

本格政党内閣1918＝29歳：歌集「愛のなやみ」刊行。

ベルサイユ条約・1919＝30歳：処女小説を発表。

大暴落・・・1920＝31歳：{水滸}選者になる。合同歌集「青煙集」刊行。一平と共に仏典を研究して傾倒。

原敬首相暗殺1921＝32歳：\*一平と共に仏教の講義を受け、ついに仏教にたどり着く。

関東大震災・1923＝34歳：関東大震災で家が焼失。

護憲三派圧勝1924＝35歳：歌題「桜」を発表。入院した慶応病院で外科医新田と恋に落ち、

治安維持法・1925＝36歳：歌集「浴身」刊行。新田が退職させられて北海道に転出後も何度か訪問。

金融恐慌・・・1927＝38歳：{日光}同人となる。女流歌人の合同歌集が刊行され、随筆依頼が飛躍的に増える。

共産党事件・1928＝39歳：新田も同居するようになる。

世界恐慌・・・1929＝40歳：一家(新田、恒松も)をあげて渡欧。

海軍軍縮条約1930＝41歳：脳充血で倒れる。この頃には太郎が生きがいがなくなっていた。

満州事変・・・1931＝42歳：

五一五事件・1932＝43歳：太郎と別れて(以後会うことができなかつた)帰国。建て続けに紀行文発表。以後、小説に専心。

国際連盟脱退1933＝44歳：{文学界}同人に自宅を提供したり、日本ペンクラブ創設に尽力。父が死去。再び、脳充血で倒れる。

帝人疑獄事件1934＝45歳：\*仏教に関するエッセーや講演で、“仏教界のスター”になった。随筆集「かの子抄」の他、書き下ろしで仏教に関する諸論を次々と刊行。仏教研究家としても認められる。

二二六事件・1936＝47歳：「渾沌未分」、随筆集「女性の書」。芥川竜之介をモデルにした「鶴は病みき」で作家的出発を果たす。

日中戦争始・1937＝48歳：「金魚撩乱」、随筆集「女の立場」。\*代表作「母子叙情」刊行。

健保+総動員 1938＝49歳：「やがて五月に」、「老妓抄」など刊行。三回目の脳充血で倒れ、

第二次大戦始1939＝50歳：没した。